

令和6年度 第1回社会教育委員会会議録

日 時 令和6年6月14日（金）9時30分から11時30分

場 所 市役所多目的ホール

委員	委員 長	松尾 弥生
	副委員長	高瀬 由美
	委 員	谷勝 公代
	委 員	河合 新一
	委 員	難波 克利
	委 員	橋尾 恵美
事務局	生涯学習課 課長	北島 悦乃
	生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
	生涯学習課 主事	藤井 優佳

1. 開会（事務局）

2. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

先日、兵庫県の社会教育委員会総会に出席しました。総会とはまた違うのですが、加西市では、4月24日に社会教育推進員を対象とした研修会を5年ぶりに開催することができました。

地域には、社会教育推進員という方がいらっしやり、各町の中で活動されております。ただ、実際に何をしているのかは、町ごとに異なります。運動会やお祭りのことをされているところもあれば、人権研修会や小地域福祉活動のお茶飲みサロンのことをされている地域もあります。社会教育推進員の人数も様々で、1人の町もあれば、私の地元の町のように6人もいらっしやる町もあります。

たくさんの方が携わってくださっているのですが、皆さん言われることは、「社会教育推進員は何をするのか」ということです。そこをご理解いただかないと前に進めないところがあります。やっていることはそれぞれ違いますが、結局のところ、地域の繋がりづくり、人材育成、青少年育成、ふるさとの事業をしていただくことが役割

です。このことを5年ぶりに研修会でお話することができました。

また、教育委員会で新たに補助金制度を作ってくださいまして、必要な町は申請をして、最大2万円を受け取れるようになりました。この補助金の申請状況についても、本日の会議の中で報告をいただければ嬉しいなと思っています。

町単位の活動、校区単位の活動、いろいろありますが、結局、足元の町の活動がそういったところを理解して活動を行っていただくことで、進んでいけるのかなと思っています。

お礼と共にあいさつとさせていただきます。今日は皆さんご協力よろしく願いいたします。

3. 社会教育委員紹介

～社会教育委員の紹介～

4. 協議事項

(1) 社会教育関係団体の認定について

～事務局より説明～

○委員 B

絆食堂とかさい根日女狂言グループの助成金の違いは何なのでしょう。

○事務局

北播磨県民局のものか市のものかという違いです。

○委員 A

狂言グループについて、市からの委託料はないのですか。

○副委員長

昨年度まではありましたが、今年度からは市から離れていますので委託料はありません。補助金がなくても、先生に稽古に来てもらえるように会費を決めました。また、先生の方でも、地域に古典芸能を伝えていくのは私たちの仕事でもあるということで、（東京にお住いの方ですが）近くに来た時にお稽古をする等の配慮をしてくださっています。

また、補助金の申請のほかにも、企業回りなどをしながら活動をしていこうと思っています。

○委員 A

あれだけの大きな事業でしたから、私たちも今後の活動をしっかり見ていく必要が

あると思っていました。

○副委員長

ご協力をいただければと思います。市民会館の大ホールいっぱいにするというような夢はもちろんあるのですが、それは一旦後において、各町のお祭りやなどに出演をさせてもらい、小さいところから経験を積んでいこうと思っております。

○委員長

保護者の方がたくさんスタッフとして入っていらっしゃいますね。

○副委員長

やらないと運営できないのですが、皆さん団体を立ち上げますかという呼びかけのもと立ち上がった団体なので、基本的には、保護者は全員少しずつ役割を持ってもらっています。名簿に書かせていただいているのは、運営のかたちを決める役員です。

○委員 A

私も児童合唱団の活動に関わっていたので、そのときのことを思い出します。県大会や全国大会に行っていましたが、看板の費用をどうやって安く抑えるかなどいろいろと工夫をして活動をしていました。

また、自分の子どもだけに関わるとホームシックになるので、親という立場は少し抑えて全体に関わってくださいということを言っていました。

絆食堂の方ですが、どこの補助金を受け取っていらっしゃるのでしょうか。

○事務局

内訳までは把握できていないのですが、県と市の分があると思います。

○委員 A

市も子ども食堂を作らないといけないから、私も月 1 回でもしてほしいという要望を受けます。ただ、社会福祉審議会の方で、子ども食堂の対象は困窮家庭だということがありますが、それが崩れてしまって補助金だけが動いているので、少し見直しが必要ではないかと思っています。

また、絆食堂は交通費が結構かかっているのですね。

○副委員長

ボランティアの方が多く来てくださるとその分かかってしまうのですよね。

○委員長

そうですね。本来は単価計算して支給するべきなのですが、これは補助金を支給している事務局の判断になりますね。

また、これは相談という形なのですが、子ども食堂だけで社会教育関係団体の申請

をしてこられたときに、それは違うという話になってしまいます。ただ、もう少し丁寧に活動内容を見ていくと、「絆食堂」は、レクリエーションや地域交流など、世代間交流をされていることがわかり、社会教育関係団体として通さない理由はないと思います。

気になることは、将来的に子ども食堂が、「うちも、うちも」と申請をあげてこられたときのことです。なぜ社会教育関係団体になりたいのかという理由が施設使用料を減免してほしいでは話が違うと思うのです。施設使用料の減免が目的なのであれば、福祉団体で減免をされる方がいいのではないかと思います。

なので、事務局の方から担当部署に相談をしていただけないでしょうか。将来的に、減免できる団体（子ども食堂）と減免できない団体があるというようなことが起これば、せっかく良いことをされているのに軋轢を生んでしまいます。

ですので、福祉団体として減免をする方がいいのではないかと思います。

○事務局

「絆食堂」で代表者が目指しているのは、困窮家庭に限らず、子育て支援を行うということです。どんな家庭環境の子どもも来ることができて、楽しむことができるというところを目指して活動をされています。

地域のふるさと創造会議の皆さんもバックアップしてくださっています。そのおかげもあり、毎回たくさんの子どもの参加されているようです。今回、名前を「絆食堂」にしたいと申出があったとき、事務局からもいろいろなお話をさせていただきました。レクリエーションなど子ども食堂以外の活動もここまでされているのであれば、「一期一会子育てラボの会」として活動を続けられてはどうですかという話もさせていただいたのですが、代表者の思いとしては、「絆食堂」として活動をしていきたいということでした。

また、嬉しいことにたくさんの方が参加してくれるので、レクリエーションの部分で手が回らなくなっているところがあるようです。食を中心とした居場所づくりをしたいという思いが強いこともあり、今回、この名前で申請を出されています。

ただ、委員長がおっしゃった、他の子ども食堂との関係の問題については、これから出てくるだろうと事務局も思っております。

○委員長

一度、担当部署とお話をして、検討をしていただければと思います。

○委員C

子ども食堂として括るのであれば、今後も増えてくる可能性はあるなと思いまし

た。九会地区がやっているならば、うちの地区もというような声も当然上がってくると思います。そうなったときのために、基準を設けておくべきだと思いますので、私としては認める・認めないという以前に、子ども食堂としての位置づけをはっきり明確にしておいた方が、今後、同じような申請が出てきたときに不公平感なく判断ができるのではないかと思います。

○委員 D

子ども食堂って、いろいろなところで名前は聞くのですが、実際に何をされているのか、よくわかっていなかったです。西在田校区には「はっちゃけ西在田」というグループがあり、子育て支援でいろいろな活動をされていて、良いなと思って見させていただいていたんです。そのような内容のことをされるのだったら、団体としてとても良いなと思います。

また、予算のことについて、活動のお金はどのようにされているのかなと思っていました。参加費は 100 円や 200 円なのに、カレーやちらし寿司を提供してもらっていたので。それで、こういう助成金もあるのだなと思って見させてもらいました。

先ほど、交通費のお話について、全体の補助金額のうち交通費の割合は確かに大きいなと思ったのですが、この団体はスタッフの数も結構いらっしゃるし、月に 1 回開催されていたら、交通費を出さないわけにはいかないだろうなと思いました。

活動内容とねらい、今後その数が増えたときの対応などいろいろ課題があるなと思いました。

○委員 B

少ないスタッフで本当によくやっているなと思いますので、何とか免除にしてあげたいなと思います。

今後の波及を考えると、福祉団体として認めていただいて、活動拠点にしている南部公民館の使用料が免除になるのであれば、その方がいいのかなと思います。皆さん同じ活動をされるわけではないので、社会教育関係団体では、認める団体と認めない団体がでてきてしまう可能性があると思います。今の話を聞いていると福祉団体として認定する方がきれいなのかなと思いました。

○副委員長

内容的には社会教育関係団体でいいと思いますし、子ども食堂の申請がたくさん上がってきたときに、福祉団体として認められるとなったらそっちに移行するのもいいのではないかなと思います。

あちこちで子ども食堂の活動がされていますが、場所は地域の公会堂でやっていた

りするので、いくらでも社会教育関係団体の申請が上がってくるわけではないのかなと思います。また、公民館は市内に4館しかないので、遠いところに行かないといけない地域も出てくると思います。

たくさん子ども食堂ができて、全部が市の公民館を使うことはないと思うのですが、制度があることが大事だと思います。一度話をしていただければと思います。

また、食堂をメインにしたいのか、レクリエーションなどの交流をメインにしたいのかというところも大事なのかなと思います。

○委員長

担当課と話していただいて、認めていただけるのであればいいのですが、認めてもらえなかったときは、後日、書面決議で認定するかどうか諮っていただければと思います。

○委員 A

私は、子ども食堂の時間指定が夜になっているのが気になります。毎回この時間なのでしょうか。小さい子どもは寝るような時間ではないかと思うのですが。

また、福祉であれば、夕食ではなく、昼食の方がいいのではないかと思います。

○委員長

団体の活動時間は審査には入れることはできません。おっしゃっていることは、たしかにそうなのですが、社会福祉協議会の広報にも載っていますからね。

一番いいのは、子ども食堂が地域にあることではなくて、この世の中から子ども食堂がなくなることです。そこを目指すのに、特に支援をしていく福祉のグループの一つとして認められるのであればいいかなと思います。

～社会教育関係団体について承認～

(「絆食堂～みんなのお家～」のみ保留)

(2) 加西市教育事業等補助金について

～事務局より説明～

○委員長

「加西市青年連絡会えんどれす」は、社会教育関係団体に入っていないですね。このグループは、教育委員会で青少年育成団体という枠で設立しています。補助金は出してくださっていると思うのですが、社会教育関係団体に入るように事務局で指導をしていってほしいです。

○委員 A

私は総合教育センターの会議に入っていますが、会議の中で活動が少なくなっていることは議題にあがっています。

○委員長

ぜひ、社会教育関係団体として申請をいただけるように、会議でご助言をいただきたいです。

○委員 A

わかりました。今度会議がありますので。

ところで、地域のふるさと創造会議には市からお金が入っていますよね。どうやって金額を決めて、どこまでの事業が予算の範囲内なのかなと思っています。

○委員 B

ふるさと創造会議は、はじめは、地域の困りごとを地域で考えるというものだったのですが、実際は地域の困りごとが大きすぎて、ふるさと創造会議のメンバーだけでは解決できないことが多いです。

校区によって、区長が入られたり入られなかったり、活動自体もバラバラですが、私たちの校区は、イベントをやったり子どもたちの学習を支援したりしています。

○委員 A

社会教育の補助金も書類を出したら補助金がもらえると考える方も出てくと思いますが、それでいいのかなと思います。市の方で方針を明確に打ち出さないと、トップの方は困っていらっしゃるのではないかなと思います。

○委員 B

ふるさと創造会議は、校区によって活動は違いますが、厳しくみていただいているので、正しく分配をして、使われていると思います。

～補助金について承認～

5. 報告事項

(1) 令和5年度社会教育活動の実績について

(2) 令和6年度社会教育の取り組みについて

～事務局より説明～

○副委員長

総合教育センターで青少年に関する事業をいろいろとされていると思うのですが、

いつもこの会議の資料にはあがってこないのが気になっています。どんな活動されているのだろうかという気持ちもあるので、次回からお願いしたいです。

○委員長

先ほどの副委員長のお話のように、私もいつもお願いをしています。青少年教育事業は、総合教育センターでされているので、生涯学習課の事業報告には上がってこないのは当然かもしれないのですが、これは枠取りの問題かなと思っています。

たとえば、公民館では夏休みに子ども向けの講座もされていますし、オークタウンのアドベンチャークラブは、以前、生涯学習課に青少年女性係があったときからの事業です。本当はそうやって活動されていることがあるのですが、これだけ見ると青少年の事業をやっていないように見えてしまいます。重複になっても構わないので、青少年事業と書いていただくだけで加西市生涯学習課にも青少年事業があることがわかるので、お願いします。

別件ですが、今回の草刈り講座が載っていないのですね。

○副委員長

草刈り講座よかったです。自宅に草刈り機があるけれど、使い方がわからないというような方を対象に、草刈り機の使い方を教える講座だったのですが、若い人からプロみたいな方まで参加されていました。

また、加西市社会福祉協議会（ボランティアセンター）の方も来られていて、草刈りのグループ作って、草刈りができずに困っている地域にボランティアで行くという話まで出ていました。課題解決に繋がるととても良い事業だなと思いました。

○委員長

社会福祉協議会の方が講座の場にいらっしゃっていたのですよね。講座が終わったときに、参加者に声をかけられてボランティアグループを立ち上げられたようです。これは社会福祉協議会にいいところを持っていかれたというわけではなくて、社会福祉協議会と教育委員会が協働できた良い事業だと思います。

○事務局

～事務局より学校の再編について報告～

○委員長

他市町では、制服がスカートかズボンか選べるようになってきましたが、その辺りにも配慮がされているのでしょうか。

○事務局

ジェンダーの問題は避けては通れない課題となっておりますので、準備委員会では

その点も考慮して検討されています。また、日頃のお家でのお洗濯など、保護者の意見なども聞きながら進めていくということで聞いております。

○委員 B

学校再編まで泉地区は2年足らずで大変だと思います。

学校とともに活動をしているような団体は、これからどのように変わっていくのかということも見ていかないといけないと思っています。

○委員 D

初めてこちらの会議に出席させていただき、知らないことがたくさんあるなと思いました。普段いろいろな配布物がありますが、目にしたことはあるけど、実際の中身をよく知らなかったことがたくさんわかりました。関心をもって、これからは見る、読む、参加するということをしたかったらと思っています。ありがとうございました。

○委員 C

私も今年度から新しく委員として参加させていただいておりますが、社会教育って何をしているのだろうかというところから、先日の東・北播磨の研修会も含めて、学校の周りにこういう組織があることを改めて認識する機会になったと思います。ありがとうございました。

○委員 A

学校再編の話はどうなるのか、難しいですね。

加西市は、各家庭で力をもつように子育てをしてきたと思います。大学がないので、加西市にずっといるということは難しいと思いますが、自分の力で生きていく確かな力だけはどの子どもにもつけてあげたいと思っています。そのために、社会教育はもっと前に進んでいいのではないかと思います。

6. 閉会

○副委員長

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。

1年間の報告ということで、普通に生活していると見えていなかった事柄も事務局の方でまとめていただいて出てきたのではないかと思います。「これも教育委員会でやっていたんだ」「これも生涯学習課に入っているのね」というようなものもありました。

せっかく、こうやって社会教育委員として集まらせていただいておりますので、市民の皆さんが活動しやすいように、何かお手伝いできることがないかを常に頭に置きな

がら皆さん一緒に活動をしていただけたらと思います。

これから1年始まりますが、よろしくお願いいたします。